

平成 27 年度『全国体力・運動能力、運動習慣等調査』結果公表

平成 28 年 2 月

1 調査の概要

(1) 調査目的

- ① 子どもの体力等の状況に鑑み、国が子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 各教育委員会、各国公市立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ③ 各国公私立学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

(2) 調査対象とする児童生徒

小学校第 5 学年、中学校第 2 学年の原則として全児童生徒を対象とする。

(3) 調査事項

①実技に関する調査

- ・小学校調査では、以下の種目を実施

[8 種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20m シャトルラン、50m 走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

- ・中学校調査では、以下の種目を実施

[8 種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走、20m シャトルラン、50m 走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

(※持久走か 20m シャトルランのどちらかを選択)

※夕張市においては、持久走（男子 1,500m、女子 1,000m）を選択

②質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する児童生徒質問紙調査、学校質問紙調査

(4) 調査実施日

平成 27 年 4 月から 7 月までの期間

2 夕張市の参加学校及び参加児童生徒数

夕張市立ゆうばり小学校 第 5 学年 男子 12 人、女子 21 人 計 33 人

夕張市立夕張中学校 第 2 学年 男子 19 人、女子 18 人 計 37 人

3 調査結果の分析

(1) 体力・運動能力調査の結果分析

【小学校】

8種目の実技のうち、男女とも「長座体前屈」と「ソフトボール投げ」が、全国と北海道の平均を上回っている。男女ともに全国と北海道の平均を下回ったのは「50m走」「20mシャトルラン」「上体起こし」の3種目である。

「握力」は男女とも、北海道の平均値を下回るが、全国より上回る。「反復横とび」と「立ち幅跳び」は、男子が北海道と全国の平均値を下回るが、女子はこの2種目を上回っている。

実技調査結果から8種目の結果を点数化した体力合計点において、男子は北海道と全国の平均を下回るが、女子は上回る。男子は中間の領域が少なく下位領域範囲に入る児童が多いのに対して、女子は中間が少なく上位領域に入る児童が多い。8種目の実技でも北海道の平均を上回っているのは男子が2種目に対して女子は4種目である。

【中学校】

8種目の実技のうち「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横とび」「持久走」「50m走」の6種目において、男女とも北海道と全国の平均を下回る。

「ハンドボール投げ」は、男子が北海道・全国の平均を上回り、女子は北海道を上回るがわずかに全国を下回る。「立ち幅とび」は、男子が北海道と全国の平均を下回り、女子は北海道を上回るが全国を下回る。

8種目の結果を点数化した体力の合計点は、男女とも北海道と全国の平均を下回る。男子は中間層とその下の領域に入る生徒が多く、女子は中間領域が少なくその上の領域と下位領域に入る。

8種目のうち、男子は1種目が北海道と全国の平均値を上回り、女子は2種目で北海道を上回るが、全国はわずかに下回る。

(2) 運動習慣等調査の結果分析

【小学校】

児童生徒質問紙調査では、「運動やスポーツをすることが好き」の回答で男子が北海道と全国を下回るが、女子は上回る。

「運動部やスポーツクラブに入っている」「家の人から運動やスポーツを積極的に勧められることがよくある」の回答は、男子は北海道と全国を下回るが、女子は上回る。

「体育の授業」と「健康に運動は大切」の質問には、男女とも全員が「楽しい・やや楽しい、大切・やや大切」と回答している。1週間の総運動時間は、男子が北海道と全国を下回るが、女子は上回る。「中学校で授業以外に自主的に運動をしたいか」の質問には、男女とも「した

い」と回答し北海道・全国を上回る。

【中学校】

児童生徒質問紙調査では、「運動やスポーツをすることが好き」と回答したのは、「やや好き」を含めると男女とも全員が回答し北海道・全国を上回るが、「運動部等へ所属していない」生徒は、北海道・全国より多く、「家の人からの積極的な運動の勧め」の質問に「よくある・時々ある」と回答している男子は北海道・全国を下回るのに対して、女子は上回る。「保健体育の授業は楽しい・やや楽しい」の回答は、北海道・全国を男女とも上回る。

1週間の総運動時間は男女とも全国を下回るが、女子は北海道を上回る。

卒業後、「自主的に運動したいと思う」と回答した男子は北海道・全国を下回るが、女子は上回っている。運動やスポーツに関する興味関心・意欲は、男子より女子が高い傾向である。

4 調査結果のまとめ

調査の結果から小学校と中学校に共通点が多く、夕張市の特徴的な傾向としてとらえることができる。

調査種目の中には、北海道・全国平均を上回る種目もあるが、北海道・全国と夕張市の標本数があまりにも差（全国：小学校・中学校とも約50万人、全道：小学校・中学校とも約2万人に対して、夕張市：中学校19人・小学校12人）があるため、比較評価より傾向としてとらえるのが良いと考える。

児童生徒質問紙調査で健康三原則と言われる「運動」「食事」「睡眠」の「運動」について、どのくらい大切かを質問している項目で、全国は食事や睡眠に比べて運動に対する意識が低いのにに対して夕張市では、小学校の男女ともに全員が「大切・やや大切」と回答し、中学校では9割が「大切・やや大切」と回答している。

次に、運動習慣調査に身長と体重から肥満と痩身傾向をみる調査結果についての報告である。夕張市の傾向としては、小学校：男子33.3%、女子9.5%、中学校：男子17.7%、女子12.5%に肥満傾向がみられる。中学校男子に高度肥満が含まれており、将来の健康保持のためにも食生活や運動などの生活改善が求められる。小中学校ともに高度やせすぎの範囲に該当する児童生徒はいない。

子どもたちは、健康な体をつくるために運動が必要であることは理解しているものの、運動系部活動の所属や学校の体育以外で日常的に運動やスポーツをすることが少なく、児童生徒に肥満傾向がみられる夕張市の実態であるが、夕張市のみならず北海道全体の傾向ともいえる。

最後に本調査の報告は、学校の教育活動全体を通じた体育・保健体育の向上に関する指導の工夫改善資料として活用するとともに、地域や家庭と連携した健やかな夕張の子どもの育成を目指すための資料とするものである。

【分析：夕張市教育委員会教育課】